

【ねがいはしては】

平成18年9月26日

第192号

KYOWA SCHOOL

「寄り添うこと」

夏休み、くりたのランチ勉強室の中で、久しぶりに『兎の目』（灰谷健次郎）に会うことができました。この作品は、もう15年以上も前に、ある生徒から教えてもらったもので、それ以来その中の登場人物である『足立先生』は、わたしの目標の先生になっています。その中の一節、ある小学2年生の女の子、きみちゃんが、近所の子どもたちに勉強を教えます。その代償として10円か20円の月謝をとります。（今で50円～100円位）その子の家はお父さんと弟の三人暮らし、お母さんは家出をしたまま帰ってきません。お父さんは仕事へ出たまま帰らない日もあるといひます。500円（今で2000円位）置いたまま3日間も帰らないある日、その子は近所の子から月謝をとって勉強を教えます。ままごとのような授業なのかもしれませんが、学校側から「お金を取っての授業をやめさせてきなさい。」との命令があり、足立先生は結局きみちゃんに「お金もらうのやめとくか」と言ひます。きみちゃんは「うん」と素直にうなずきます。

足立先生は苦しみます。きみちゃんはなぜそのような行動をとったのか……。その心根を思うと……。きみちゃんはきょう、お父さんが帰ってこなかったら晩ご飯どうしたらいいのだろうと考えたあげく月謝をとって授業をしました。幼い弟に食べ物を買ってあげられることを考えたら、いてもたってもいられなかったのでしょう。

足立先生は学校の命令に従う、きみちゃんは心の底から慕っている先生の言うことだから「うん。」

ここにひとつの大きなテーマがあります。

子どものころに添ってあげなければならないはずの先生が、黙って学校からの命令に従わなければならないかった不甲斐なさ……。それどころか子どもはそんな先生の心中を察してか、だまって「うん。」とうなづく……。

ぎゃくに子どもに沿ってもらっていることが歯がゆくてならない。

私はこのときの、この2年生の女の子の「ころ」を思うとき、胸がつまってなりません。このような『ころ』の使い方を、小学校2年生の子が……。

親と子の間、先生と生徒の間に必要なものです。土台です。

確かにこれは小説の中の一コマかもしれませんが、今の学校、今の家族のなかに最も強く育まねばならない物は、この『ころ』だと思います。先生が子どもに教えられる。親が子どもに教えられる。その素直さを子どもたちは皆持っていると思います。その芽を摘み取っているのは、学校でありご家族なのかもしれません。

私たち大人は知らない間に社会のルールというものさしに、当たり前のように気持ちを沿わせています。成績アップ、部活での活躍、宿題、進学……。子どもたちを見て、真っ先に気持ちが行ってしまう先です。

ご家庭でのお母さまやお父様のお子さんに対する、真っ先に抱いてしまうものではないでしょうか。それよりも何よりも、このきみちゃんが抱く、足立先生に寄せる『ころ』を手に入れることが先ではないでしょうか。そしてそつと自分に問いかけていただけますか。お子さんはお母さんやお父さんの心に寄り沿っていてくれますか。

この教室の中で、私は時々生徒に頼んで生徒を教えてもらひます。『助け合いの勉強』と呼んでひます。その時の彼ら二人のまなざし……。おそらく学校ではここまで真剣な表情は見せないでしょう。教える方も教えられる方も真剣です。二人の間には相手を蹴落として順位を上げようとか、抜かされたくないからケチな教え方で終わらせよう、などといった感情は微塵もありません。やさしさと思ひやりに満ちた気持ちでいっぱいです。そして伝わらないことがわかると二人そろって聞きに來ます「あの一、わかりません」

相手に対して申し訳なかったという気持ちがそれぞれにあります。上手に教えられなくてごめんね。わかることができなくてごめんね。相手を思ひやる気持ちでいっぱいです。どんなに学校で荒れていても、ここへ來ると素直な目になれるのはこんなことからかもしれません。比べあう勉強などちつとも面白いはずがありません。助け合う勉強は思ひやりの心を育むものです。

家族がひとつになることは、家族全員の心が温かく穏やかであり続けていることです。

きみちゃんも足立先生も幸せの中にひます。わたしはこの教室に通う全員の子たちと、そして卒業していった子たちと、みーんな、きみちゃんと足立先生の間柄でいたいと思ひます。それにはまだまだ修行も苦勞も足りません。

足立先生に近づくには良いチャンスがずっと続ひています。なぜならきみちゃんのような子が、ここにはたくさんいるからです。

足立先生は居酒屋で最後にこう言ひます。「きみは、悪いことをしたと思ひてあやまつてるわけやあらへん。すきな先生がきて、なんやら、やめなさいというてるらしい。地球の上でたったひとりかふたり残った好きな人がやめとけいうとる。しゃーないワ。きみの気持ちはそんなとこやろ」

『きみ』という名をお子さんの名に変えてみてください。

おかあさん、おとうさん、お子さんはきみちゃんですか？